

めぐみイエス・キリスト教会

2019年5月5日(日)第一主日礼拝
週報「通算第454号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年5月5日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌363「わが身の望みは」	p. 582
【交読文】	No.33 詩篇第104篇	p. 906
【賛美Ⅱ】	新聖歌148「夕べ雲焼くる」	p. 206
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナルNo.1「ビジョン」	
【聖書朗読】	マルコの福音書10章13節～16節(新約p. 79)	
【祈 禱】		
【説 教】	《子どものように》鈴木 竜実 牧師	
【聖 餐 式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【マルコの福音書10章13節～16節】(新約p.79上段)

10:13 さて、イエスにさわっていただこうとして、人々が子どもたちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちは彼らをしかった。

10:14 イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

10:15 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」

10:16 そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

●ポイント1. 共観福音書における平行記事から

※ルカの福音書18章15節～17節「ルカによる綿密な調べ」(新約p.140)

18:15 イエスにさわっていたただこうとして、人々がその幼子たちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちがそれを見てしかった。

18:16 しかしイエスは、幼子たちを呼び寄せて、こう言われた。「子どもたちを私のところに來させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

18:17 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」

●ポイント2. 「幼子」とは？

※ルカの福音書2章21節～33節「老人シメオンの告白」(新約p.100下段)

※マタイの福音書2章19節～21節「紀元前4年の出来事」(新約p.204)

2:19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現われて、言った。

2:20 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつねらっていた人たちは死にました。」

2:21 そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地にはいった。

●ポイント3. 「子どものように」とは？

※マタイの福音書18章1節～4節「主イエス様の言葉」(新約p.32上段)

※第Iヨハネの手紙5章4節～5節「イエス様を信じる者」(新約p.431)

5:4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

◎先週のメッセージの概要【復活から一週間後】

《主イエス様は復活されました。そして弟子たちに現われたのです。

『その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」しかし、十二使徒の一人トマスは、その場にいなかった。』ことをヨハネは書き記しています。

しかしルカの福音書では、十一使徒全員がいたことになっています。『すぐさま二人は立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、「本当に主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。』

そして、イエス様の新しい命令が書かれています。「あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都に留まっていなさい。」

イエス様の最初の命令は、「ガリラヤに行きなさい。」と言うことでした。なぜなら、この時にトマスはいなかったのです。だからこそ、イエス様はご自分が出された命令を保留して、「都に留まりなさい。」と言われたのです。十一使徒が全員そろって、ガリラヤに行くべきなのです。

そして八日目、再び同じような光景にイエス様は現われて下さいます。その時にはトマスもおり、十一使徒がそろっていました。そして、その後再びイエス様は、ガリラヤに行くことを、弟子たちに命令されたに違いありません。それゆえヨハネ21章には、ガリラヤ湖畔での使徒たちが描かれているのです。

それでは、なぜ「一週間後」なのでしょう。イエス様は、週の始めの日に、弟子たちが集まっている場所に現われて下さいました。そしてそれから1週間後、同じように弟子たちが集まっていた場所に、再び、ご自身を現わされたのです。これこそが、教会の日曜礼拝の始まりなのです。

「二人でも三人でも私の名によって集まる所には、私もそこにいます。」と。

イエス様は集まることの意味と大切さを教え、また礼拝を制定されたのです。そして、その場所に、主イエス様ご自身が来て下さることの、確固たる保証であり、また約束です。教会は、主イエス様とお会いする場所なのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は5月12日(日)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は5月8日(水)午後6時15分からです。